

伊野小学校の再編を考える検討委員会

最終報告書

検討委員会会長

多久和 祥司

出雲市が提案した伊野小学校・東小学校・檜山小学校の再編・統合案について、2年間にわたって慎重な審議を重ねた結果、去る4月23日に開催した第11回検討委員会において**3分の2以上の多数で反対と決しました。**

伊野小学校の存続を決めた主な理由と今後の課題について報告します。

< 理由 >

1 小規模校・少人数学級の強みをいかした教育で子どもの成長を支える

小規模校・少人数学級の良さ・強みをいかした教育をいっそう発展させることにより子どもの能力や個性を伸ばすことができる、と考えるからです。また、学校と家庭・地域の緊密な連携の下で、子どもの悩みや課題に丁寧に寄りそって成長を支援することが子どもの利益にかなうものと考えます。

複式学級の学力についても心配はないと思われます。奥出雲町立亀嵩小学校や松江市立大谷小学校の視察では、教職員も保護者も子どもの学力に問題を感じていないと言っていました。

昨年度、伊野小学校では3・4年生が複式学級になりましたが、学習意欲や集中力が高まり、交友関係も広がった、と好評でした。

2 地域の教育資源（人・自然・文化・歴史・産業等）を子どもの成長につなげる

伊野地区では地域の教育資源を活用した学習活動が学校と地域の連携によって旺盛に展開されています。身近な地域を窓口にして学習を展開することの多い小学校では、このような活動が保障されることが子どもの学力向上と地域に愛着を感じる子どもの育成につながるものと思われます。

統合になれば、こうした学びが衰退し学習効果が減じる恐れがあります。また、コミセンや各種団体が行っている多くの子育て事業にも悪影響を及ぼし、地域の活力・教育力が減退することは大田市井田地区や雲南市入間地区の視察結果でも明らかです。

3 徒歩通学が可能な校区でゆたかな子育てを

統合してバス通学になれば、子どもの負担が大きくなり、保護者の送迎の負担も増します。子どもたちが地域を素通りすることになり、伊野地区の自然や人々とのふれあいも減ります。

また、災害等、緊急時に子どもの命と安全を守るうえで、地区内に学校があるということは計り知れない効果を発揮するものと思われます。保護者や地域の人々の目が届く親密な関係が子どもの豊かな成長を保障することになるでしょう。

4 地域コミュニティの維持・発展

伊野地区から学校が無くなれば、人口減少・人口流出が加速し、地域コミュニティの衰退に拍車がかかることが予想されます。地域から学校が無くなった井田地区や入間地区では、地域の様々な努力にもかかわらず統合した小学校近辺への人口流出が進んでいました。学校を中心とした地域のつながりは地区住民の元気の源であり、学校が無くなれば地域コミュニティー

や人々の心に大きな打撃を与えることが予想されます。また、伊野小学校の校舎・校庭・体育館の維持管理に問題が生じ、地元負担が大きくなると思われます。子育て世代のUターン・Iターンを促すためにも、学校が伊野地区にあることは重要な要件であると思われます。

< 課 題 >

1 社会性やコミュニケーション能力を育てる活動

統合に賛成する保護者の皆さんが最大の理由として挙げたことは、児童数が多い方が「社会性」や「コミュニケーション能力」が育つということです。こうした不安・要求にこたえるために、他地域や他校との交流など、子どもの世界を広げる活動を学校と地域が連携して展開していくことが求められます。

あわせて、「社会性」や「コミュニケーション能力」とは何か、どのような関係性の下でその能力が育つのか、ということについては今後の丁寧な議論が必要です。検討委員会にお招きした有馬毅一朗先生（島根大学名誉教授）は、「大きな集団の中に子どもを入れれば社会性が育つというものではない。親密な関係の中でこそ社会性やコミュニケーション能力が育つ」と指摘しました。視察した小学校の保護者からは、「少人数集団だから、気の合わない人とも協働する力を獲得できた」「異学年との交流（タテの人間関係）が広がり、そのことが社会性やコミュニケーション能力育成につながっている」等の意見が聞かれ、今後の議論の参考に資する視点として受け止めました。

2 幼（保）小中一貫教育の充実

向陽中学校に入学したときの中1ギャップ（4地区から子どもが集まり、大きな集団の中に入ることによる戸惑いなど）を解消するために、小中一貫教育の充実が求められます。小学校と中学校や小学校同士の連携を深めるとともに、幼稚園や保育園との連携も模索する必要があると思われます。

3 魅力あふれる伊野小学校教育の創造

伊野小学校で展開されている教育の魅力を地域内外の人々に情報発信するとともに、国際理解教育など新たな活動を盛り込み、特色ある伊野小学校をつくっていくことが子どもの利益にかなない、地域づくりにも大きく貢献するものと思われます。

そのために、伊野小学校の教職員集団が抱えている困難を支援し、創造的で先駆性に満ちた教育実践を支援するために、地域をあげて応援する体制を整えていくことが求められます。

4 説明責任及び課題に対する具体的取組

検討委員会の議論内容は、学校・地域の視察報告書や中間報告書を作成して町内会長会や代議員会に報告し、伊野地区あげて学校再編についての議論を深め、合意形成に努めてまいりました。検討委員会は伊野小学校の存続という結論を出しましたが、そうでない意見をお持ちの方もおられること、とりわけ保護者の皆様の間では再編に賛成の方が多かったことを重く受け止めて、丁寧な説明を行い、検討委員会や自治協会等に対する不信が生まれないように努力してまいりました。

今後、保護者の皆様には最終報告書に併せて教育アンケートをお届けし、子育て環境の整備や学校教育に対する要求を把握したいと考えています。

伊野小学校存続に伴う様々な課題については伊野地区自治協会や伊野小学校地域学校運営理事会等が中心となって、学校との緊密な連携のもとに実効性のある取組を開始することが求められます。伊野の教育・子育ての新たな歴史がスタートしたと考えます。地域が丸くなって、魅力あふれる子育ての里をつくっていただきますよう、お願い申し上げます。